〔南海通紀十七〕長曾我部元親守四國記

阿波ノ南方、那珂海部二郡ハ、險阨ノ地ナリ、〇下略

〔南海通紀十一〕三好家兵將發向讃州寒川記

此トキ長曾我部氏、阿州宍咋海部ヨリ仁宇ノ山桑野ニ至マデ南方二郡ヲ取リ布キ、七城ヲ拔テ、香曾我部親泰ヲ郡代トシテ、茂木ノ城ニ居置テ歸ル、十河存保三好長治ハ、堺ヨリ書ヲ送テ曰、今度長曾我部阿州南方二郡ヲ掠ムル事ハ、是讃州寒川ガ領ヲ奪ントスル費ニアリ、讃州ヲ取ザル分ハ國ノ禍有ルベカラズ、南方ヲ取ル、ハ阿波ノ國ノ破トナル、

〔阿州將裔記〕足利義冬ゟ之系圖

義冬　永正六年、京都にて生る、母は細川讃岐守成元の女、天文三年、都より阿波國へ下向して、那東郡平島庄に居住す、

海部郡

〔阿波志十二〕海部郡東南瀕海、西南至土佐、西北至那賀郡、北至美馬郡、延袤二十餘里、　建置沿革

海部舊爲郷屬那賀郡見倭名抄後分爲郡慶長九年、村凡二十四、元祿中、二十六、後爲五十八、

〔南海通紀十一〕土佐元親出陣阿州記

此海部郡ハ山中灘目遼遠ニシテ二十餘里ニ迄、村落百有餘アリ、由岐四村、木岐四村、日和佐八村、牟岐十三村、淺川五村、木頭廿四村、相川八村、海部十三村、宍咋十九村、凡如此也、灘目椿泊ハ那賀海部ノ境也、〇中略椿水崎ハ海部ノ內也、紀州白井ノ水崎ヘ十里アリ、由岐浦、舟カヽリ惡シ、灘目九村アリ、日和佐浦入海アリ、舟繫惡シ、那賀郡境ヨリ是マデ五里アリ、牟岐浦舟カヽリナシ、日和佐ヨリ二里アリ、沖ノ方三里ニシテ牟岐ノ大島アリ、淺川浦入海アリ、〇中略牟岐ヨリ一里アリ、鞆浦舟カヽリアリ、淺川ヨリ一里アリ、那賀郡荒田村ヨリ是マデ十三里アリ、海部木村吉田城地也、那佐ノ入海アリ、〇中略宍咋浦那佐ノ海邊也、山中村里十里相ツヾク、鞆浦ヨリ一里十六町